2025.5.1
帝塚山学院大学

帝塚山学院大学における主な教学 IR の取り組みについて

【教学ＩＲを担当する組織・部局の概要】

本学では、事務組織としては IR 担当が所属する教学センター（企画課・教学課）を中心に教学 IR 活動に取り組んでいる。また、会議体としても「データに基づく教育活動の検証と改善・更新に関する事項」を役割の一つとする「教学委員会」及びそのもとに設置されている「教学マネジメント WG」」にて、教学 IR の取り組みを教職一体となって実行している。

【主な取り組み】

日常的な教学に係るデータの収集・分析に加え、「アセスメント・プラン」に基づくアセスメント活動への寄与を大きなミッションとしている。「アセスメント・プラン」に基づくアセスメントの活動の実施結果は、学長を議長とする「大学評議会」に報告を行うこととし、アセスメント報告の結果を速やかに意思決定に繋げることができる体制を敷いている。IR 担当は専門的知見を活用し、必要に応じてアセスメント報告を行うためのデータの提供や分析、また提言を行っている。

【改善実績】

2021 年度に大きな取り組みとして、大学 IR コンソーシアムのアンケートを実施・分析し、本学の強みと弱みを明らかにし、またそのための改善方策の検討・報告を行った。調査・分析の結果、弱みとして「授業外での学修時間が少ない」ということが明らかになり、これを改善する方案の一つとして CAP 制度の厳格化を検討することが「大学評議会」の場でも確認され、その後の議論を経て、2022 年度入学生より CAP 制度の厳格化を実行した。

2022 年度にも同分析を実施し、本学内での経年比較では授業外での学修時間にやや増加傾向が見られるものの、他学との比較では依然として低い値を示していることが確認された。改めて教学上の重点課題として認識し、2022 年度中に授業レベルでの改善を促す取り組みを実施するとともに、他学に比肩するような数値とするための施策検討を 2023 年度の「教学マネジメント WG」の重点諮問事項として設定するなど、さらなる改善に向けた取り組みを進めることとした。

2023 年度の同分析によって、授業外での学修時間について他学との差が縮小しており、これまでの取り組みの成果が一定挙がっていることが確認できた。また、「教学マネジメント WG」において 2023 年度中に「教育の質保証」「GPA 制度の活用」の観点から授業外学修時間の促進のための 7 つの施策を立案し、いずれも実行に移している。

2024 年度の同分析においては、授業外学修時間がベンチマークの一つである文系大学の平均と同程度となったことが確認でき、これまでの取り組みの成果が一定程度挙がったことが確認できた。今後はこの傾向が継続的に続く（あるいはベンチマークを上回る）かどうかをアセスメントで確認を行う。